

平成28年度 行政評価事業別シート

	実計対象 ■	評価対象 ■	新規 □	完了事業 □	ゼロ予算事業 □	担当者	松下峻也
	全体計画			経費区分	実施計画事業費	内線	3414
事務事業名	4160 鳥獣被害防止対策事業						
所 属	150100 産業振興部・農林課						
施 策	05012100 農業の活性化						
予算科目	会計	01 一般会計					
	科目	060103 農林水産業費・農業費・農業振興費					
	事業	020000 鳥獣被害防止対策事業					
事業目的				事業概要・効果			
地域、集落の現状と出没鳥獣の全体を把握し、最も有効な手立て（電気柵、わな、檻、緩衝帯整備など）を検討し、鳥獣被害を最小限に留め、農業者の営農意欲の持続に勤める。				<ul style="list-style-type: none"> ・サル・イノシシ用の電気柵・防護柵購入 ・緩衝帯整備に関する事業 ・有害鳥獣駆除業務 			

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 予定
電気柵2.6km 緩衝帯整備3.9ha	電気柵2.3km 緩衝帯整備1.5ha予定
平成29年度 予定	平成30年度 予定
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成27年度 決 算	平成28年度 予 算
事業費		20,865	25,010
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	3,793	3,791
	地方債	0	0
	その他	380	1,600
一般財源		16,692	19,619
人員数(人)	正規職員	1.0	1.0
	嘱託職員	0.1	0.1
	臨時職員	1.0	1.0
人員コスト	正規職員	7,208.0	7,208.0
	嘱託職員	270.5	270.5
	臨時職員	1,030.0	1,030.0
	計	8,508.5	8,508.5
市民一人当たりの経費		0.6	0.6
総額		29,373.5	33,518.5

(単位：千円)

平成27年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	2,190	有害鳥獣駆除報奨金
11節 需用費	426	野ねずみ駆除実施薬剤
13節 委託費	1,915	猟友会有害鳥獣駆除委託
15節 工事請負費	1,773	電気柵設置工事
19節 負担金補助及び交付金	5,706	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会
その他	8,855	電気柵材料費

(単位：千円)

平成28年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	1,600	猟友会有害鳥獣駆除委託
15節 工事請負費	2,000	電気柵設置工事
19節 負担金補助及び交付金	2,570	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会
その他	18,840	電気柵材料費

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	被害防除が広範に及ぶ場合が多いので、各町で対策委員会を組織し電気柵等の設置と管理を行っている。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	電気柵の設置により、被害が減少するなどの効果が出ている。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	電気柵の原材料は市が提供し、各町対策委員会による自力施行での設置と維持管理を行っている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

市においても専属の電気柵点検の職員を配置し、順次設置箇所の点検補修等を行い機能維持に努めているが、継続した各町対策委員会の理解と協力が必要。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>地元の協力で、電気柵等の施行延長は着実に伸び、被害減少の効果が出ている。管理について、継続した地元の協力が不可欠のため、引き続きご理解とご協力をお願いしていく。</p>		<p>電気柵の設置については、地元の協力により設置済の延長距離が拡大している。成果として鳥獣被害の減少と中山間地における耕作放棄地の拡大防止に繋がっていることから、引き続き地元の協力を得て設置を進める。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	